

令和7年度戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業
事業実施報告書

事業名：東松島 BLUELAND プロジェクト

令和8年2月

団 体 名

一般社団法人東松島みらいとし機構

目 次

1 事業概要

- (1) 事業名
- (2) 事業目的
- (3) 事業内容
- (4) 発注機関
- (5) 請負者(実施団体)
- (6) 事業実施期間

2 令和7年度モデル事業の取組内容及び成果

- (1) 海洋生態系機能の回復に向けた海底底質改良の事前調査
- (2) 海洋教育プログラムの実施イベントの開発及び実施
- (3) 東松島 BLUELAND ラボの実施
- (4) 東松島 BLUELAND フォーラムの実施
- (5) 上記活動を周知するための情報発信事業

3 今後の課題、次年度以降の取組方針

4 総括

1 事業概要

(1) 事業名

東松島 BLUELAND プロジェクト

(2) 事業目的

自然・経済・教育が連動する里海づくりモデルを構築することです。東日本大震災や気候変動により変化し続けている沿岸の海底土壌の改善を通じて健全な海洋生態系を回復し、藻場や生物多様性の維持・向上を目指します。また、循環型の水産資源利用や地域経済との連携を通じて、持続可能な水産業の基盤を教育から自然環境の理解と地域への関わりを深める機会を提供します。

(3) 事業内容

実施した事業は下記のとおり

- ① 海洋生態系機能の回復に向けた海底底質改良の事前調査
- ② 海洋教育プログラムの実施イベントの開発及び実施
- ③ 東松島 BLUELAND ラボの実施
- ④ 東松島 BLUELAND フォーラムの実施
- ⑤ 上記活動を周知するための情報発信事業

(4) 発注機関

公益財団法人国際エメックスセンター

(5) 請負者（実施団体）

一般社団法人東松島みらいとし機構

(6) 事業実施期間

令和7年6月27日（契約日）から令和8年2月27日まで

2 事業の取組内容及び成果

東松島 BLUELAND プロジェクトは、東松島 BLUELAND プロジェクト協議会（事務局：一般社団法人東松島みらいとし機構）が主体となり、宮城県東松島市を対象地域として活動を行っている。震災から約 15 年経過した宮城県東松島市沿岸地域において、環境・経済・教育の分野が横断的に連携した里海モデルの構築を目指し、持続可能な地域循環の再生に取り組むことを目標とする。

対象地域では近年、水温上昇等による環境変化の影響により生物循環のバランスが崩れつつあり、底質の悪化や藻場の減少、および生物多様性の低下が課題として顕在化している。特に、藻場は多様な生物の生息場であり、水産資源の基盤ともなる重要な環境要素であるが、その減少は漁業や地域経済にも重大な影響を与える。また、東日本大震災の復興の進展とともに物理的なインフラ整備が終了し、自然環境への取り組みや持続可能な資源管理方法の仕組みづくりは、引き続き課題が多く残っている。

一方で、東松島市では漁業者、研究者、行政、教育機関、地域団体など多様な主体による連携体制が既に形成されつつあり、環境教育や海洋教育の推進など、新たな取り組みも発展しつつある。よって、本事業はこれらの既存の取り組みを統合し、さらに発展させる役割を担っている。



図 2-1 東松島市沿岸地域



図 2-2 東松島 BLUELAND 協議会

本プロジェクトの最終目標は自然・経済・教育が相互に連動する里海づくりモデルの確立である。具体的には、沿岸域の底質改善および藻場再生を通じて海洋環境の回復を図り、生物多様性の維持・向上を実現することである。また、循環型の水産資源利用や地域経済との連携を強化し、持続可能な水産業の基盤を構築する。さらに、教育面では次世代を担う子どもたちが海との関わりを深め、地域の自然環境の価値を理解し、主体的に未来を創る力を育むことも重要な要素としている。

こうした目標の達成に向け、本年度は調査とモニタリングの継続実施をベースに、底質改善に関する実証実験および評価を東北大学大学院農学研究科附属女川フィールドセンターと共同で行った。科学的データの蓄積と分析を進めることで、環境変化の実態把握と改善効果の可視化を図っている。また、海洋教育の実践を通じて、地域の子どもたちと連携した学習機会を創出した。加えて、ブルーカーボンの可能性検討や将来的な自走可能な事業計画の構築に向けた検討も開始している。

3カ年の主な計画としては、令和7年度に現状把握および事前調査・モニタリング、里海づくりのビジョン策定、底質改善の仮説検討等を実施し、基盤づくりを構築。令和8年度には調査・モニタリングの継続とともに底質改善の実証実験を行い、海洋教育の教材作成やフォーラム開催等を通じて地域内外への発信の強化を予定している。令和9年度においては、この先も本プロジェクトが持続的に運営できる体制確立および自立的な事業展開へと発展させることを目指している。

東松島 BLUELAND プロジェクトは単なる環境保全活動にとどまらず、科学的根拠に基づく環境再生、水産業との共存、そして次世代育成を一体的に推進する地域モデルの構築を志向している。里海を軸とした持続可能な地域社会の実現に向け、今後も多様な主体との連携を深化させながら取り組みを進めていく。

(1)海洋生態系機能の回復に向けた海底底質改良の事前調査

①目的

本事業は、東松島市内海域における海底底質の劣化傾向を科学的に把握し、底質環境の改善を通じて海洋生態系機能の回復を図ることを目的とする。近年、市内の沿岸海域では底質のヘドロ化、溶存酸素量の低下（貧酸素化）、潮流の減少傾向が確認されており、これらは藻場・海草場の衰退、生物多様性の低下、さらには養殖業を中心とする地域水産業への影響を及ぼしている。

加えて、地元漁業者からは、東日本大震災以降「海底の土壌が変わった」「潮の流れが弱くなった」「海域が浅くなっている」といった指摘がヒアリングを通して分かった。また、松島湾内では海草の移植を実施しても数年後に枯死・消失する事例が多数確認されており、先に移植活動による藻場再生を目指すのではなく、海草が定着・持続できる基盤環境そのものに課題がある可能性があるとして本協議会では考える。これらの漁業者による知見と経験、そして科学的調査から、本プロジェクトでは豊かな生態系や藻場が持続的に生息できる健全な土壌づくりをメインの取り組みとして位置付ける。

豊かな藻場は生物多様性の基盤であり、また自然のバランスの取れた生態系は一次生産を支える根幹である。藻場や海草場は多様な底生生物や魚類の生息場として重要な機能を果たすとともに、ブルーカーボン生態系として炭素固定機能もある。

本事業では、まず1年目に現状把握として、水質調査を毎月1回、底質およびマクロベントス調査を半年に1回実施し、物理、生物学的目標指標設定のためを継続的にデータを

収集する。これにより、底質の粒度構成、有機物堆積状況、酸化還元状態、生物相構造を統合的に把握し、藻場再生が可能な健全な底質目標値を設定する。

最終的には科学的根拠に基づいた底質改良手法の検証および評価を通じて、生物多様性の回復と持続可能な水産業基盤の再構築を図るとともに、地域住民および次世代に対する海洋環境理解の向上にも寄与することを目的とする。

②実施状況

令和7年度は、過去に藻場が自生していた区域および現在も一部自生が確認されている区域を調査エリアとして設定した。メインの調査地点としてK地点、N地点、T地点を設定し、各地点で底質および水質調査を実施した。本調査地点は地元の漁業者と東北大学の先生方と議論の上、決定した。

R7年度 松島湾・東松島BLUE LAND 調査結果報告

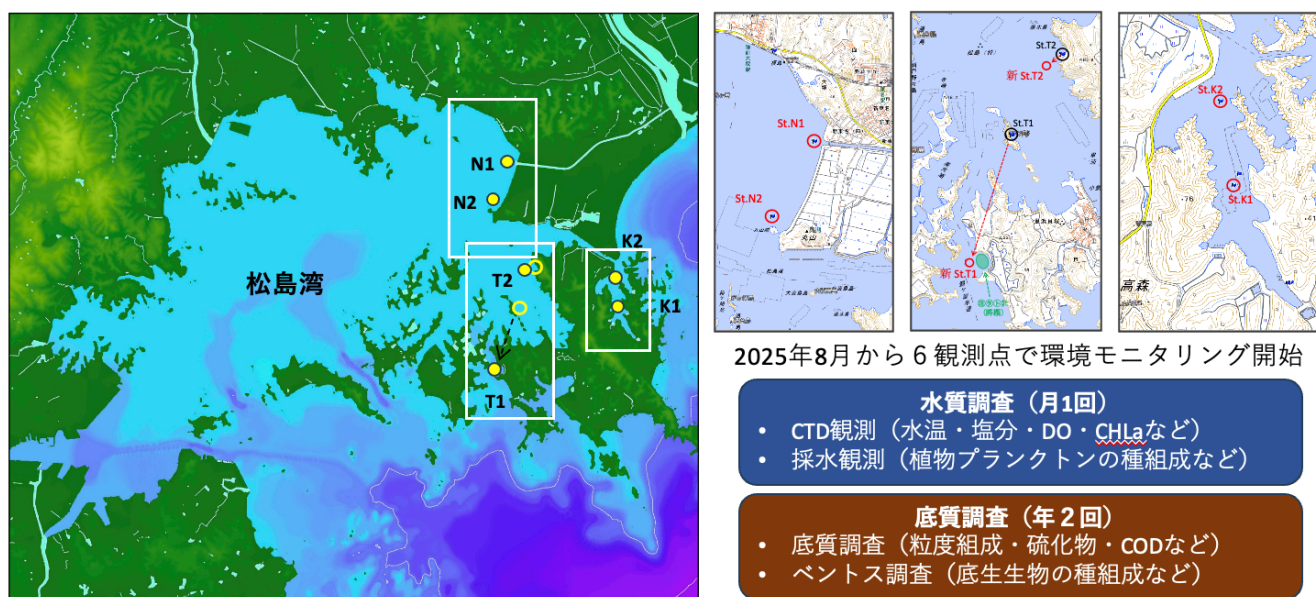


図 2-3 調査区域及び検査項目等

(1) 検査項目

【水質調査（毎月1回）】

水温・塩分・溶存酸素（DO）・pH・透明度・栄養塩類（T-N、T-P 等）

【底質調査（半年に1回）】

粒度分布試験・粒径加積曲線作成・土粒子密度・含水比・シルト分・粘土分含有率・均等係数（ U_c ）・曲率係数・圧密特性・一軸圧縮強度等

【マクロベントス調査】

種数・個体数・優占種構成・底生動物群集の多様度指数

(2) 調査地点

- ・N1 及び N2 長浜、丸山付近 鳴瀬支所管轄（過去にアマモ場であった）
- ・T1 及び T2 蛤浜・里浜付近 宮戸西部支所管轄（現存のアマモ場）
- ・K1 及び K2 潜ヶ浦・松ヶ島漁港付近 宮戸支所管轄（種牡蠣いかだ付近）

③結果

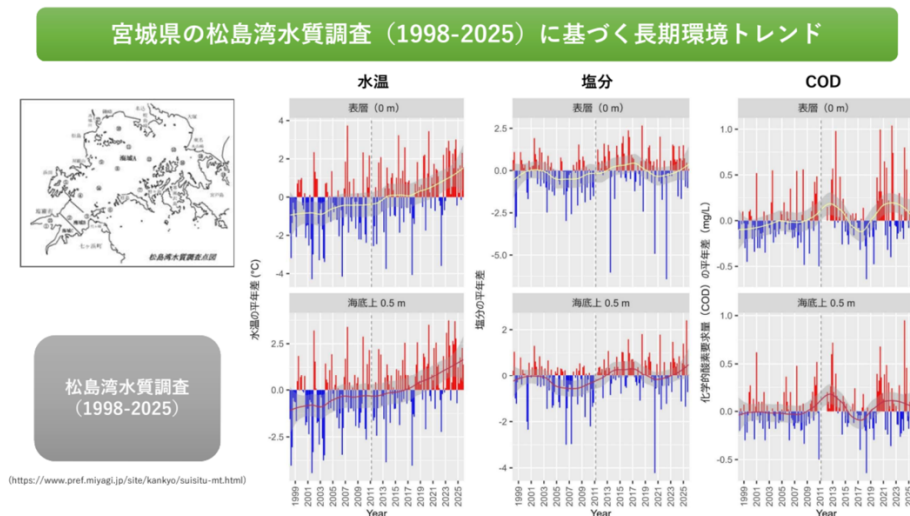


図 2-4 松島湾水質調査の先行データ整理図①

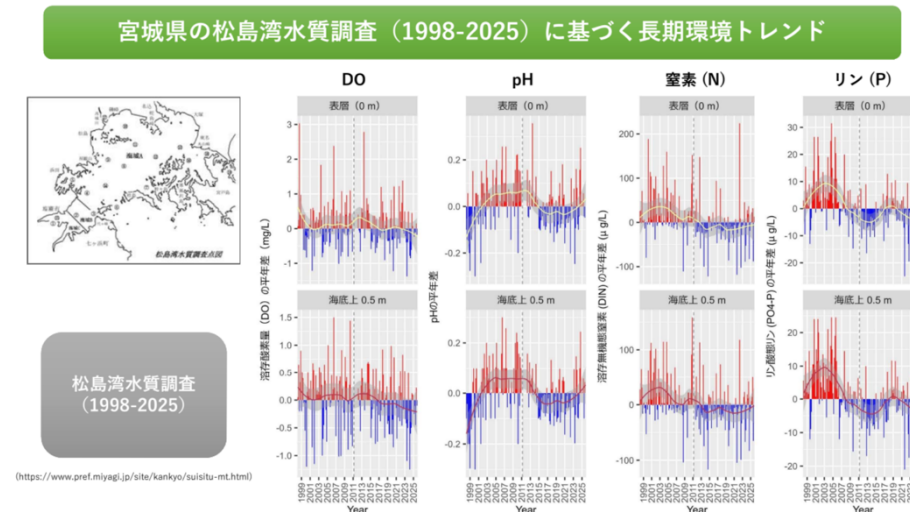
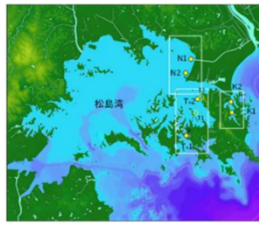


図 2-5 松島湾水質調査の先行データ整理図②

松島湾 沿岸環境モニタリング（底質調査の結果）



松島湾底質調査
(2025年 夏・冬)

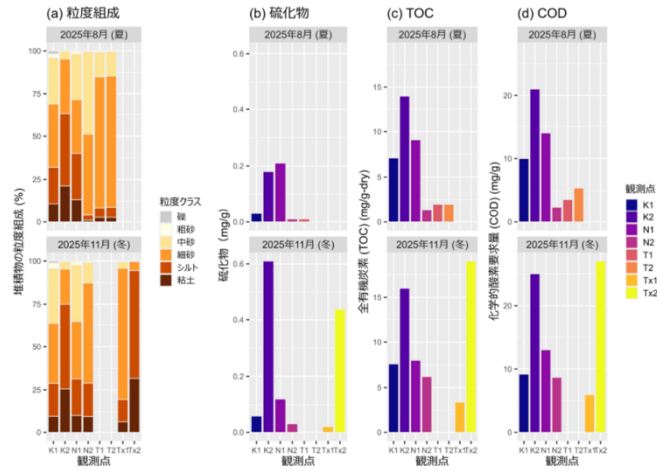
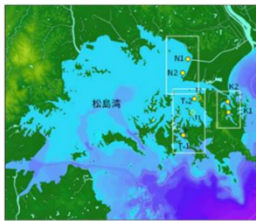


図 2-6 令和 7 年度底質調査結果（2025 年 8 月・12 月）

松島湾 沿岸環境モニタリング（ベントス調査の結果）



松島湾ベントス調査
(2025年 夏・冬)

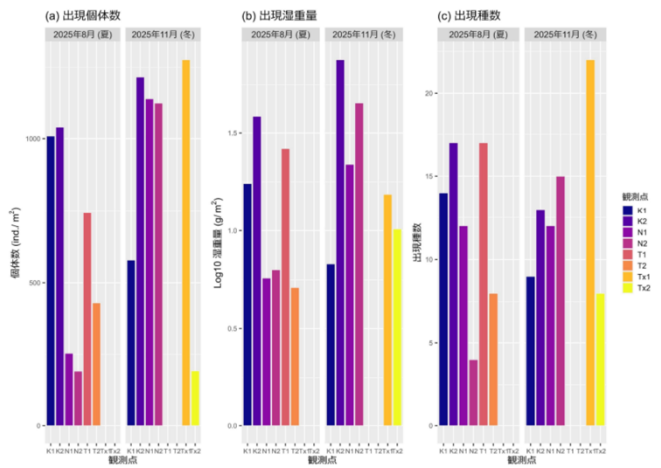
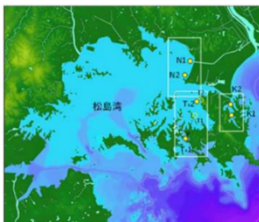


図 2-7 令和 7 年度ベントス調査結果（2025 年 8 月・12 月）

松島湾 沿岸環境モニタリング（ベントス調査の結果）



松島湾ベントス調査
(2025年 夏・冬)

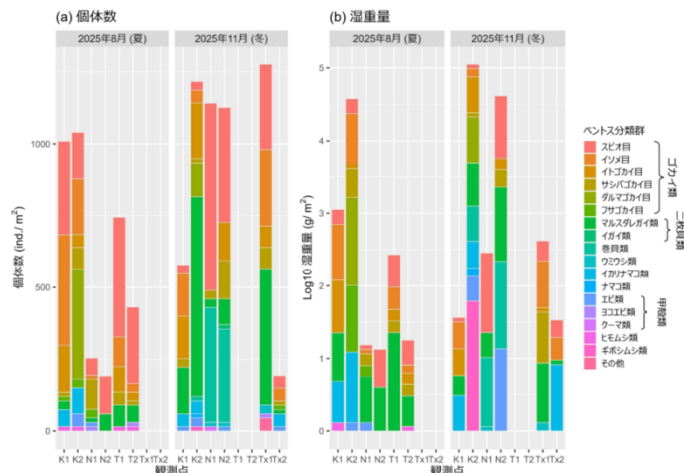


図 2-8 令和 7 年度ベントス調査結果/個体数等（2025 年 8 月・12 月）

項目 地点名	硫化物 (mg/g)	TOC 全有機体炭素 (mg/g-dry)	COD 化学的酸素要求量 (mg/g)	粒度組成					
				礫	粗砂	中砂	細砂	シルト	粘土
				2mm以上 %	0.85~2mm %	0.25~0.85mm %	0.075~0.25mm %	0.005~0.075mm %	0.005mm以下 %
st.K1 (潜ヶ浦・牡蠣棚付近)	0.03	7.1	10	1.8	2.2	26.9	37.1	21.2	10.8
st.K2(松ヶ島漁港前)	0.18	14	21	0.0	0.1	4.6	32.3	41.8	21.2
st.N1 (東名運河水門前)	0.21	9.1	14	0.3	1.4	26.7	31.6	26.8	13.2
st.N2 (東名長浜・丸山前)	0.01	1.4	2.4	0.1	0.2	48.5	47.2	4.0	
st.T1 (築島付近)	0.01	2.0	3.6	0.0	0.6	14.5	76.5	5.8	2.6
st.T2 (里浜・東名漁港寄り)	<0.01	2.0	5.4	0.0	0.2	14.4	76.6	6.2	2.6
下限値	0.01	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

図 2-9 令和 7 年度夏季底質調査結果 (数値)

項目 地点名	硫化物 (mg/g)	TOC (mg/g-dry)	COD (mg/g)	粒度組成					
				礫	粗砂	中砂	細砂	シルト	粘土
				2mm以上 %	0.85~2mm %	0.25~0.85mm %	0.075~0.25mm %	0.005~0.075mm %	0.005mm以下 %
st.K1	0.06	7.6	9.2	1.2	3.1	32.3	34.6	19.1	9.7
st.K2	0.61	16	25	0.2	0.2	4.3	20.3	49.5	25.5
st.N1	0.12	8.0	13	0.4	1.8	33.3	33.2	21.1	10.2
st.N2	0.03	6.2	8.7	0.2	0.6	11.9	58.4	19.4	9.5
st.T1	0.02	3.4	6.0	0.2	0.3	3.7	76.4	13.3	6.1
st.T2	0.44	19	27	0.0	0.0	0.4	5.1	62.9	31.6
下限値	0.01	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

図 2-10 令和 7 年度冬季底質調査結果 (数値)

夏季と冬季を比較して以下の点が明らかになった。

- ・夏季と冬季において、長浜、水門前の st.N2 地点が硫化物や COD の数値からも有機汚染が進んでいると推測できる。地理的条件も好条件ではない中で、潮流の減少や浅瀬における高温の影響もあると考えられる。
- ・硫化物においては、特に 12 月の調査時に st.K1 で 0.61 mg/g と増加し、その他の地点でもやや増加傾向にあった。これは冬季、季節の変動によるものではないかと考える。
- ・冬季調査において有機物 TOC および COD が増加傾向にあり、硫化物も増加している地点も見られる。粒径組成では特に粘土の増加が顕著に見られた。

松島湾は遠浅で干潟のような底質が広がる閉鎖性の沿岸生態系であり、底質の状態は周辺の水質や生物、さらには養殖生産にも大きな影響を与える可能性がある。現在湾内の底質には汚染の程度が高い地点が今回の調査で明らかになった。宮城県が取得しているデータから長期的な環境変動を見ると、海水温や塩分は上昇傾向にある一方、溶存酸素 (DO) や栄養塩濃度は下降傾向にある。化学的酸素要求量 (COD) や pH は時期によって変動を繰り返してきましたが、近年はともに改善傾向が見られた。

東松島市市内の海域で、松島湾内に面するエリアのアマモについては、震災直後に湾内の90%以上が消失し、ここ数年の水温上昇によりさらに激減。しかし、湾内には局所的に健全なアマモ場が残っている場所も確認されている。

次年度の調査研究計画としては、以下の取り組みを予定：

- ・底質および水質の定期的なモニタリング調査の実施
- ・残存するアマモ場の物理・生物環境の精査および比較
- ・松島湾の長期的な環境変動トレンドの解析
- ・藻場・アマモ場の回復に向けた底質改善実験（牡蠣殻やナマコを活用した手法を検討中）の着手



図 2-11 令和 7 年度調査の様子



図 2-12 令和 7 年度調査の様子

(2) 海洋教育プログラムの実施イベントの開発及び実施

①目的

海洋教育プログラムは、東松島市においてより質の高い海洋教育、環境教育の展開を目的に、今年度は小学生を対象に海洋科学ワークショップシリーズを実施。運営については市内の自然教育事業を行っている一般社団法人 ODYSSEY がコンテンツの開発、企画、運営までを行った。ODYSSEY および本プロジェクトでは、次世代のリーダー的人材の育成を目的として単なる体験活動にとどまらず、観察・考察・理解のプロセスを通じて科学的思考力及び社会に必要な非認知能力（主体性・探究心・協働性）についても重きを置きプログラムを運営。また、東松島市の児童にも地域の水産業や日々の暮らしとの関係性を理解させることで、将来的に環境保全に主体的に関わる意識の醸成を狙いとした。

②実施状況

内容
令和7年8月9日（土）9:00-11:30 第1回小学生のための海の未来を描こう！海洋科学ワークショップ 内容：地元の漁師による東松島の海洋生物の紹介や漁業について、海の中に関する講話、未来の海のスケッチ。定置網から上がった魚の観察。 参加者：市内小学生21名 市内小学生を対象とし、東松島の海洋生物や漁業に関する講話、未来の海のスケッチを行うワークショップを実施した。はじめに、ODYSSEYの成澤から東松島の漁業についての講話（どんな漁業があるか、どんな魚がとれるか）を行ったあと、ODYSSEYメンバーでもあり地元漁師でもある大友が当日定置網漁でかかった魚を実際に子どもたちに見せながら解説、その後子どもたちに魚を直に素手で触る体験をしてもらった。子どもたちは非常に興味深々で、魚の感触や匂いを確かめながら魚に対する理解を深めていた。その後、未来の海をスケッチ！と題して、クリエイティブラーニング（創造的な学び）という教育的メソッドを取り入れたカリキュラムを行った。 子どもたちは、改めて実際の魚を見たり触ったりしながら、画用紙へ自分が想像する未来の海を思い思いに描いていた。また、さかなかるたを活用して、遊びを取り入れた魚類に関する知識も増やすことができた。 子どもたちや親からは本ワークショップが非常に好評で、東松島の海についての理解をより深めていただいたと同時に、海に関する興味をより持っていただいた。
令和7年9月6日（土）9:00-11:00 第2回小学生のための生き物調査隊！海洋科学ワークショップ 内容：船上での海の生き物や牡蠣等の貝類についての学習、海釣り体験 参加者：市内小学生10名、保護者4名 子供たちの船と保護者を含めた大人たちの船に分かれて乗船し、牡蠣漁師の後藤さんから海に関するお話しや牡蠣に関するお話をいただいた。特に牡蠣については牡蠣棚を実際に見ながらの講話となり、子どもたちは初めて見る牡蠣棚に感激しながら話を聞いて

いた。その後、一人ひとり釣り竿に釣り体験を行った。中には初めて釣りを体験する子どももあり、またやってみたくと意欲を深めた子どもや、海についてより興味を持った子どもたちがたくさんいた。クサフグを実際に釣り、漁師からクサフグの生態系についてお話があった。

船から上がった後は、体験をワークショップを通じて学んだことや感想などについて各々用紙に書き出し、アウトプットを行った。

前回同様、子どもたちや親からは本ワークショップが非常に好評で、東松島の海についての理解を前回以上に深めていただいたと実感している。

令和7年9月23日（日）13:00-16:00

第3回小学生のための海洋科学ワークショップ「海苔のひみつを探ろう！」

内容：海苔を通して、海藻と生態系について学ぶ

参加者：小学生13名

子どもたちはまず、地元の特産である海苔養殖や海藻類について座学を行った。海苔を実際に触り、顕微鏡で見て海苔の生物学について学習。普段から食べている海苔の細胞や特性を学び、参加した子ども達は関心を持ちながら積極的に質問も行っていった。

見たこと、学んだことや感想などについて各々用紙に書き出し、アウトプットを行った。

その後は、実際に海苔すきを行い、各自家庭に持ち帰りオリジナルの海苔を楽しんだ。

最後は漁師の相澤さんが今年度生産した海苔と ODYSSEY 米でおむすびを作り、食育の観点からも本プログラムを展開できた。

本シリーズは市内の子ども達が継続的に自然教育、海洋教育に参画できるシステムを徐々に構築できており、保護者にも学びの点で好評をいただいている。

令和7年12月20日（土）8:20-12:15

第4回小学生のための海洋科学ワークショップ「めざせ未来の研究者！」

東北大学大学院農学研究科附属女川フィールドセンター共催

内容：女川フィールドセンター見学、海洋生物学ワークショップ

参加者：小学生24名

市内小学生を対象とし、東北大学農学研究科池田教授、藤井准教授を講師に「やわらかい体の中のチョー硬いもの 貝の歯舌について学ぼう！」と題したワークショップを行った。

ワークショップでは、「カサガイとヒザラガイについて」「カサガイとヒザラガイの歯舌の観察」を行った。生きているカサガイとヒザラガイを各テーブルに用意し、池田教授よりそれぞれの特性を説明し、その後ハサミとピンセットを使用して子どもたち自らが歯舌を取り出して顕微鏡で観察した。参加した子ども達は歯舌を取り出したり顕微鏡を覗くという体験に真剣に取り組んでいた。

その後、学んだことや感想などについて各々用紙に書き出し、アウトプットを行った。

今年度の本シリーズは今回で終了となるが、子ども及び保護者から海や海洋生物と触れ合う良い機会として好評を得ているほか、参加した子どもにはリピーターも多く一定の成果を挙げていると考え、次年度以降のワークショップや BLUELAND プロジェクト自体の推進に繋がるような展開を行っていきたい。



図 2-13 海洋プログラム参加児童の様子
(生き物探検隊)



図 2-14 海洋プログラム参加児童の様子
(研究プログラム)



図 2-15 海洋プログラム参加児童の様子
(研究プログラム)



図 2-16 海洋プログラム参加児童の様子
(生き物探検隊)

第1回
小学生のための
**海の未来を描こう！
海洋科学ワークショップ**

夏休みの特別企画

8/09 土

時間：午前9時～11時30分
参加無料 定員：20名
対象：東松島市在住の小学生

場所：矢本西市民センター

主権：一般社団法人ODYSSEY
共催：東松島市LIFE LANDプロジェクト・東松島市
後援：東松島市教育委員会

お問い合わせ：
メール：info@odysseyjapan.org
電話：080-7282-1150

WEBサイト 会員LINE

本イベントは、環境省中部地域振興局「令和の夏海づくり」参加機関支援事業の一環として行います。

図 2-17 海洋プログラムのチラシ (8月)

第2回
小学生のための
海洋科学ワークショップ

みんなで海を探検！
海の中にある生き物を
みんなで調査！
牡蠣漁師さんと貝類
について学ぼう！

東松島市の海にはどんな生き物が生息しているか探検！牡蠣やアサリはどんな場所にいる？牡蠣のスペシャリストの牡蠣漁師さんと一緒に暮らして学びます。

当日：受付→乗船して生き物探し→屋外で生き物観察

持ち物：筆記用具・水筒・タオル・帽子・長靴・汚れてもいい服装
※野炊文の活動となり夏休みの思い出をリポートに記入して帰ってください。

申し込み：ODYSSEY公式LINEまたはWebサイト
参加されるお子様の氏名・小学校名と学年・保護者様のご連絡先(氏名及び電話番号)をご記入の上ご応募ください。

9/06 土

時間：午前9時～11時00分
定員：10名
対象：東松島市在住の小学生(無料)
市外在住の小学生(2,000円/人)
(保護者見学OK)

場所：後継水産(陸前大塚駅近く)

主権：一般社団法人ODYSSEY
共催：東松島市LIFE LANDプロジェクト・東松島市
後援：東松島市教育委員会

お問い合わせ：
メール：info@odysseyjapan.org
電話：080-7282-1150

WEBサイト 会員LINE

本イベントは、環境省中部地域振興局「令和の夏海づくり」参加機関支援事業の一環として行います。

図 2-18 海洋プログラムのチラシ(9月)

第3回
小学生のための
海洋科学ワークショップ

海苔のひみつを探ろう！

東松島の特産「海苔」を学ぼう！

海苔と海の生き物のつながりを知り、自分の手で「海苔すき体験」にも挑戦！

海苔を見て・触って・感じながら、東松島の海の豊かさを体験してみよう！

【内容】
・藻類と生き物のお話
・海苔すき体験
・おむすび作り(軽食付き)
・海苔の工場見学
※工場見学は天候によって中止になる可能性がありますことご了承ください。

持ち物：上履き・タオル・汚れてもいい服装・水筒

申し込み▶ODYSSEYのWebサイトまたは公式LINE
参加されるお子様の
①氏名・小学校名と学年・生年月日・アレルギーの有無
②保護者様のご連絡先をご記入の上ご応募ください。

11/23 日

時間：13:00～16:00
定員：20名
対象：小学生
参加費：1人あたり1,500円

場所：東松島市矢本西市民センター

主権：一般社団法人ODYSSEY
共催：東松島市LIFE LANDプロジェクト・東松島市
後援：東松島市教育委員会

お問い合わせ：
メール：info@odysseyjapan.org
電話：080-7282-1150

WEBサイト 会員LINE

本イベントは、環境省中部地域振興局「令和の夏海づくり」参加機関支援事業の一環として行います。

図 2-19 海洋プログラムのチラシ (11月)

第4回
小学生のための
海洋科学ワークショップ

めざせ未来の研究者！

海洋生物研究の現場で学ぼう！

東北大学の海洋研究センターで研究施設を見学し、大学の先生方と一緒に海洋生物学を学べる貴重なプログラムです！

08:20 集合(東松島市役所駐車場)
08:30 女川フィールドセンターへ向けて出発
09:30 プログラム開始(2時間)
11:30 東松島市役所へ向けて出発
12:15 解散(東松島市役所駐車場)

持ち物：筆記用具・水筒・上履き

申し込み▶ODYSSEY公式LINEまたはWebサイト
参加されるお子様の
①氏名・小学校名と学年・生年月日・アレルギーの有無
②保護者様のご連絡先をご記入の上ご応募ください。

12/20 土

時間：午前08時20分～12時15分
定員：20名
対象：小学生(無料)
東松島市のバスで女川まで向かいます
※お昼の食事については別途ご説明ください

場所：東北大学大学院農学研究所附属女川フィールドセンター

主権：一般社団法人ODYSSEY
共催：東北大学大学院農学研究所
東松島市LIFE LANDプロジェクト・東松島市・(一社)HOPE
後援：東松島市教育委員会

お問い合わせ：一般社団法人ODYSSEY
メール：info@odysseyjapan.org 電話：080-7282-1150

WEBサイト 会員LINE

本イベントは、環境省中部地域振興局「令和の夏海づくり」参加機関支援事業の一環として行います。

図 2-20 海洋プログラムのチラシ(12月)

③結果

本年度実施した海洋教育プログラムは、東松島市における海洋教育、環境教育モデルの構築に向けた実践的運営ができた。全 4 回の海洋科学ワークショップを通じ、延べ参加児童 68 名（保護者含む）が参画し、各回とも高い満足度と継続参加意向が確認された。特にリピーターの増加は、単発型ではなくシリーズ型学習としての定着を示している。

市内の小学校で行われている牡蠣剥きや海苔すき体験型学習「ふるさと教室」の機会に加え、義務教育以外の環境においてもより質の高い専門性を伴った海洋教育、環境教育を提供する必要がある。本事業では、ODYSSEY のカリキュラム開発により地元漁業者との連携が可能となり、定置網漁や牡蠣養殖、海苔養殖といった地域産業を実体験と結びつけて学ぶ機会を創出できたことは、地域の自然環境や一次産業、里海環境を取り巻く要素の理解向上に繋がった。また、顕微鏡観察や生物解剖など専門性の高い学習機会を提供したことで、科学的思考力や探究心の向上が見られた。

今年度は、東北大学大学院農学研究科附属女川フィールドセンターとの共催により、海洋研究やアカデミアの視点を地域教育へ接続する仕組みを構築できた点は大きな成果である。ODYSSEY のカリキュラムでは、単に体験するだけではなくプログラムの終盤で振り返りとディスカッションによるアウトプットを毎回実施。この振り返りの時間が児童が得た経験を言語化、そして知識化するプロセスに役立っている。また、他校や多学年の児童との交流において非認知能力を育む環境づくりになっていることも確認できた。

来年度においては、引き続き海洋科学ワークショップは継続すると共に、市内の自然環境を学べる教材制作についても展開していく予定である。また、参加児童や保護者を対象に本教育プログラムの効果測定や理解度の測定も並行で行っていく。参加した児童の保護者からも本プログラムに対して高い評価を得ており、市内児童が継続的に海洋教育へ参画する基盤をより強化していきたい。

(3) 東松島 BLUELAND ラボの実施

①目的

東松島の海洋環境の現状について、本プロジェクトでの調査結果を交えながら共有し、市内やグローバルな視点から今後の次世代に残すべき環境づくりについて話し合う場として本ラボを開催し、その上で市民及び市内企業・団体とともに環境保全や再生活動にどう取り組めるかを検討、市内の持続可能な環境づくりに向けた協働の第一歩とすることを狙いとしている。本プロジェクトは、市民とより連携型の仕組みづくりを想定しており、ラボを開催することでより気軽に市民も環境問題や環境活動に参画できるようなプログラムを次年度は計画を行う予定。また、持続的かつ長期的に本事業を継続するために、市内の多様な事業者間での交流の場や本プロジェクトに対する理解を深め、市内全体で自然環境を保全、回復させるための活動に参画する共同型プラットフォームとしてもラボを開催している。

②実施状況

令和7年度は合計3回開催。

日程	テーマ・内容	参加者および参加人数
令和7年10月22日(水) 18:00~19:30	・東松島 BLUELAND プロジェクトについて ・市内の海洋環境の変化について ・今後の取り組みについて	・東松島 BLUELAND 協議会顧問：宮城県議会高橋議員 ・東松島市役所：SDGs・脱炭素社会推進課、農林水産課、市民生活課 ・市民（市議会議員、漁師、農家、漁協、宮城県議会、電気事業者、宿泊事業者、NPO 法人、東松島市地域おこし協力隊、デザイン会社、小学校教師、観光事業者、小売事業者など） ・BLUELAND プロジェクトメンバー 計43名
令和7年11月19日(水) 18:00~19:30	「環境から考える食料と教育」	・BLUELAND 協議会顧問：東松島市渥美市長、宮城県議会高橋議員 ・東松島市役所：SDGs・脱炭素社会推進課、農林水産課、市民生活課、建築住宅課 ・市民（市議会議員、漁師、農家、漁協、宮城県議会、NPO 法人、小学校教師、観光事業者、小売事業者ほか） ・BLUELAND プロジェクトメンバー 計35名
令和8年1月15日(木) 18:00~19:30	「農業・漁業を生かした、環境保全型地域経済の発展を考える」 講師：日引聡 東北大学大学院経済学研究科 教授	・東松島 BLUELAND 協議会顧問：宮城県議会高橋議員 ・東松島市役所：SDGs・脱炭素社会推進課、農林水産課、市民生活課 ・市民（市議会議員、漁師、農家、漁協、宮城県議会、電気事業者、宿泊事業者、NPO 法人、東松島市地域おこし協力

		隊、デザイン会社、小学校教師、観光事業者、小売事業者など) ・BLUELAND プロジェクトメンバー 計 25 名
--	--	---

③結果

全 3 回開催した本ラボでは、東松島市内の海洋環境の現状および本プロジェクトの説明や将来像を共有することで、本プロジェクトに対する理解を深め地域内の関係性を強化することができた。一次産業者、教育関係者、観光・宿泊事業者、事業者、NPO 法人、行政関係者など多様な主体が参画し、分野横断的な対話の場が形成されたことにより里海づくりや環境問題にいかに関種を超えて取り組む必要があるのか考えるきっかけとなった。

来年度はより多くの市民や幅広い世代が参画できるラボの運営を目指したい。また、コンテンツも一般市民や子育て世代などターゲット層に合わせて内容を適時変更し、参画型のプログラムも展開することを予定している。



図 2-21 東松島 BLUELAND ラボ参加者の様子



図 2-22 東松島 BLUELAND ラボ参加者集合写真

(4) 東松島 BLUELAND フォーラムの実施

①目的

東松島 BLUELAND プロジェクトの活動内容や成果を広く市民や関係団体等に共有するとともに、本プロジェクトにおいてより良い運営体制に向けた行政、研究機関、事業者、地域住民などの関係者間の連携強化を目的として実施した。

②実施状況

日程：2026年2月21日（土）13:00～15:30

場所：東松島市コミュニティセンター

時間：13:00～13:50 受付開始およびプロジェクト内容展示会

14:00～15:30 フォーラム

2026 東松島BLUELANDフォーラム

2026年2月21日（土）
東松島コミュニティセンター

次 第

司会：高橋実菜絵
（一般社団法人東松島みらいとし機構）

13:00～13:50

受付開始およびプロジェクト内容展示会

14:00～15:30

一、開会の挨拶 東松島BLUELAND協議会 会長 成澤 みく

二、歓迎の挨拶 東松島BLUELAND協議会 顧問 瀧美 康（東松島市長）

三、祝辞 東松島市議会 議長 石森 晃幸 様

四、ビデオメッセージ 環境大臣政務官 森下千里 様

五、来賓紹介

六、令和7年度取組成果および海洋調査・研究発表

東北大学大学院農学研究科 池田 実 / 東北大学大学院農学研究科 藤井 豊展 / 一般社団法人ODYSSEY 南井 敬

七、子どもたちによる学びの発表

八、総評 環境省水・大気環境局 海洋環境課海城環境管理室 室長 西川 純子 様

九、パネルセッション ～次世代へつなげる層づくりビジョン～

西川 純子（環境省水・大気環境局 海洋環境課 海城環境管理室 室長）

瀧美 康（東松島市長）

藤井 豊展（東北大学大学院農学研究科 准教授）

相澤 太（宮城県漁業協同組合 矢本支所 副運営委員長）

ファシリテーター：成澤 みく（東松島BLUELAND協議会 会長）

十、閉会の挨拶 東松島BLUELAND協議会 顧問 高橋 実也（宮城県議会議員）

【東松島BLUELAND協議会構成】

（事務局）一般社団法人東松島みらいとし機構

東松島市漁業振興協議会、一般社団法人ODYSSEY、東北大学、東松島市復興政策推進部、環境社会推進部、東松島市教育委員会

（設立・協賛）宮城県

図 2-23 東松島 BLUELAND フォーラムプログラム

③結果

フォーラムでは、プロジェクトの概要やこれまでの取組、今後の展望について説明を行ったほか、有識者による海洋調査結果の報告を実施した。総評では、環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室室長の西川絢子様より、里海事業の概要および今後の展望についてご講話いただいた。

また終盤には、環境省、市政、アカデミア、漁業者の代表者とともにパネルディスカッションを行い、本プロジェクトに関するそれぞれの立場からの見解や知見を共有した。

当日の会場参加者は約 170 名以上となり、当初掲げていた目的を達成するフォーラムとなった。



図 2-24 展示の様子



図 2-25 会場の様子



図 2-26 森下政務官による祝辞

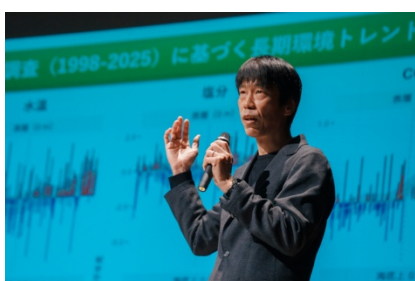


図 2-27 研究発表



図 2-28 児童による発表



図 2-29 西川室長による総評



図 2-30 パネルディスカッション

(5) 上記活動を周知するための情報発信事業

①目的

東松島 BLUELAND プロジェクトの活動や参画者拡大に向けて以下の情報発信を行なった。

②実施状況

- ・Web サイト作成・運営
- ・プロモーション動画作成
- ・ポスター制作

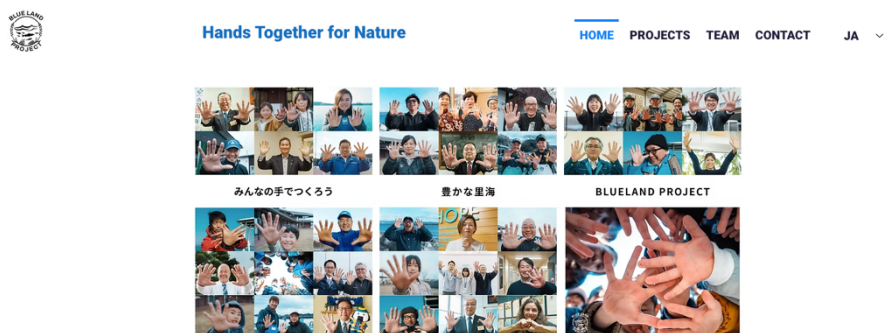


図 2-31 Web サイト



図 2-32 Web サイト



図 2-33 ポスター

③結果

本プロジェクトの Web サイトの開設・運営により、東松島 BLUELAND プロジェクトの活動内容やビジョンを広く発信する基盤を構築した。フォーラムや各イベントの周知も行うことで、多様な方々が参加できる媒体を SNS に加えて広報環境を整えることができた。

また、プロモーション動画の制作を通じて、東松島 BLUELAND プロジェクトの成り立ちや取り組む意義、そして魅力を伝えることができるコンテンツとなった。動画については、東松島 BLUELAND プロジェクトの SNS (インスタグラム等) に掲載を行った。

これらの情報発信事業の取り組みにより、本プロジェクトの認知度が向上したと感ずることが日々多くなり、関心層の拡大に寄与したと言える。

3 今後の課題、次年度以降の取組方針

今年度の東松島 BLUELAND プロジェクトを振り返ると、重点的に実施した海洋調査により、市内海域における底質汚染や海洋生態系多様性の低下が改めて大きな課題となっている点を確認できた。海水温上昇や潮流の変化、栄養塩濃度の低下など長期的な環境変動により、長期的な環境変動が生物循環のバランスに影響を及ぼしており、沿岸生態系の持続可能性には慎重な対応が求められる。また、場合によってはハード事業の導入も必要となることが考えられた。

次年度以降は、底質改善に向けたモニタリング調査を継続するとともに、牡蠣殻粉砕物やナマコを活用した海底改良実験を予定し、その効果を評価する。残存するアマモ場については、物理環境や生物環境の比較分析を進め、養殖業との関連も考察を行う。今年度同様、藻場再生に向けた底質改善手法の検討も行い、地域資源循環の可能性についても検証し、持続可能な里海づくりの目標値をより明確なものにしていきたい。

教育面では、海洋科学ワークショップのプログラムを継続し、参加者数の増加や学習効果の測定を行うとともに、市内の自然環境を学べる教材の開発も教育委員会等の機関と連携し進める。これにより、学生たちが主体的に環境保全に関わる意識を育むことを目指す。

また、協議会体制の強化やフォーラム、BLUELAND ラボの開催を通じて、市民や地元企業を巻き込んだ協働型の取り組みを拡充し、地域全体で持続可能な里海づくりに参画できる仕組みを整備する。加えて、宮城県と連携したブルーカーボンクレジット取得に向け、令和 8 年 3 月から測定を開始する予定であり、科学的データに基づく地域循環モデルの確立に向けた取り組みも進める。

4 総括（まとめ）

今年度の東松島 BLUELAND プロジェクトでは、令和 7 年度戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業を活用し、市内の既存の個々の強みや専門分野を統合し、里海をコンセプトとした環境再生事業を加速させることができた。令和 7 年度は、再生活動の基盤となる科学的調査およびモニタリングを重点的に実施するとともに、教育プログラム、フォーラム、各種イベントを通じて、市民、行政、事業者、研究者など関係者との連携を強化した。

底質、水質、マクロベントス調査により、東松島市内海域の有機汚染や底質状態を把握するとともに、長期的な環境変動のトレンドも明らかにした。これらのデータをもとに、次年度に向けた海底土壌改良のための科学的基盤を整理することができた。

また、海洋科学ワークショップでは、海洋生態系や地域の水産業に関する理解と専門知識を深める学習機会を提供。専門性の高い体験学習やアウトプット活動を通じて、子どもたちの科学的思考力、探究心、主体性および協働性の向上も確認できた。さらに、BLUELAND ラボやフォーラムの開催により、市民、行政、事業者、研究者が分野横断的に連携し、地域全体で環境保全・回復に取り組む体制を強化することができた。

特に重視したのは、「その地に責任を持ち続けられる人」を増やし、育てること。これは、次世代のリーダーとなる子どもたちが安心して暮らせる豊かな環境を守ることである。そのためには、一次産業を支える自然環境のあり方を振り返るきっかけづくりも重要であると考え。地域住民が互いの得意分野や事業を活かして活動することで、次世代も住み続けられる東松島の実現と自然再生の取り組みを加速させ、環境再生と次世代育成を融合させた地域循環モデルの確立を目指していきたい。